

りで子供に仕込んで下さつたならば今までよりは  
精神の快活な身体の確かりした丈夫な女が出来る  
であらうと思ひます、餘り長くなりませうから先づ  
これだけにして置きます、

(了)

残りなく

散るぞめでたき櫻花

ありて世の中

はてのうければ



花のかたみ

春漸く老いて何處よりともなく散り來る殘花數片。將に今年  
の告別となすに當りて殘し去りたる紀念數葉。そも何事を  
記せる今や瀕死の花必ずや良き言あらんいでや茲に寫して諸  
姉と共に讀まんかな。

やて

さても無情の世の中にて候 一年振りに御目に

かゝりやれ嘻しやたのもしや、いざや昨年御別れ

申して以來の事柄承はりもし申しも上げんと思

ひしは昨日今日と存候に早くも落花の今日と相成

申候

殊に當年は風伯様雨神様にはつれなくも少しの御思ひ遣りも玉はらで此のはかなき一生を思ふがまゝになやめもし苦しめせられ申候。爲に遂に心の中打ち明け申さんものとの兼ての希望も今は皆水の泡。さりとして此の儘に御分れ申すも餘りに残念に候へば、切めてはと茲に一書を書き残し候まゝ御一覽下され候はゞ幸榮之に過ぎず候。

思へば「敷島の大和心」と歌はれしは昔の事、爾來とても一向變りなく年々春風様春さめ様に誘はれて此の世に參り候皆様には年々に御姿をかへさせられ、中にも彼の歌の主様の如く早や幽明所をちがへさせられし御方も多く有之候、舊知は歳々にうせられて初對面の御方のみ年々に多くなりもてゆき今は昔を語るに友もなき有様心細さの程御推察下され度候。

さても嘉永の昔、浦賀灣頭黒船の一發に驚かれし時は愚か、近くは日清戦争以來の有様もなかなかに變はり申候、國運は非常の進歩にて昔には共に齡してくれざりし歐米の各國も、今は種々の方面に於て競争する次第誠に妾までも何となく肩巾廣く感じ申候、是とも皆様様の御力に依る事と感謝の至に堪えず候。

併し之に伴つて皆様様の御覺悟遊はさるべき點も決して鮮なからざるべしと信し申候。身の程も知らで斯かる事申上ぐるは嗚呼がましき次第ぞや片腹痛く御思召さるゝ事とは百も承知致候へ共さりとして思ふ事言はぬは腹ふくるゝ業とかや且つは永年の御なじみ申し上げざるは御恩に對するの道にもあらざるべしと存じ候まゝ茲に愚見を陳し候段不惡御了承之程祈上候。

想ふに國土を異にすれば各特有の風俗、習慣、氣質等はあはるべく又之を保存すべきは勿論に候へ共特有のもの必しも善きもののみとも限らず、且つは世の進運につれ社會の發達に應じ矯正改良すべきの點は多々あるべくと存候、殊に長足の進歩をなしたる我國の如き必ずや其の必要一層のものあらんと存居候、承れば近時風俗改良會とやら申すもの御設けられ候由誠によろこばしき次第に候、吳くも完全に成功せん事を希望仕候、何かと申し上げ度き事澤山有之候へども今は最後の期の迫まりたるにや、はや吐息さへもくるしく相成申候へば、飾り氣も何も打捨て、短刀直入茲に申上ぐべく候。失禮の段は幾重にも御免し下され度候。

其一 皆様には過ぎし封建時代の氣風として不生

産的の事業を學び實業を賤し、み玉ふ風有之候今日の學生社會を見ても明らかに候、文學科學の學理に走する人多く實業的の學校に學ぶ人の少なきは事實に候。都大路に塵埃蹴立て、駟馬驅る人の花やかなるよりも北風荒む野に立ちて鋤鋤にいそしむ野人の見る容なき方國家必要の人物と存候。今や國民としても個人としても實力を要する時勢に際し候て斯る氣風のあるは實に大に憂ふべきの至と存候。

其二 貯蓄心は我政府に於ても頻りに御獎勵遊ばされ居る様子に候へ共諸外國に比べては未だ頗る幼稚のものと承はり候。尤も此の事は勤勉と共にならべ行はれて一層の効ある事に候。嘗て聞かざり候中に次の話有之候誠に味ふべき詞と存居候「乞食貯蓄は駝目なり宜しく御初穂貯蓄なるべし」

とこれは世の人々の貯蓄をなすには何れも剩餘を以てし若し之なければ致さざるを批難せられ一事として彼の神佛に御薦め申すと同じく其の収入の初めに於て其の幾分を御初穂として貯蓄せよとの事に候(未完)

### 胡蝶の新入學

長野 故 飯島八千溪

今日は、長女胡蝶が初めて入學する日である、父兄付添うて午前九時に出校せうと云ふのであるから、一つ自分で連れて行て見よーと、時間前十分計りに出頭して見ると、校門に男女の受付を懇に案内してある、左切石傳いに女生徒の受付に出ると既に八九人居る、受付にわ二人の男教員が笑味を湛えて就學届を繰出して居る、何分付添人が順

番に従わず先を争ふので、受付掛わ非常に多忙だ未だ届けませぬが何分お願い申すと云ふもあれば未だ年齢わ足りませぬが來たがるから堂ぞか願いと云ふもある、先生が一々理解さるゝよーに説明につとめらるゝが稀にわ随分わからずやもある、町名を問われて小雪小路と云ふもあれば、五軒長屋だの、職業わ何もない、毎日餘所え仕事に行きますなど云ふ哀れなものもある、名わ實の實とも云えば其の子の爲めに令名を擇ぶわ親として尤なことであるけれども、女な何處も女らしいがよい、即ち、女文字とさえ稱えらるゝ平假名があれば夫れで書いて置くが最も適當だと思ふ、左に記したのが、何れが男て何れが女だか直に見分が付きましょーか、自分が子の名も假名で書くべかりしといたく悔いた。

薰(女) 薰(男) 基(女) 元(男) 幸(女)

孝(男) 嘉福次(女) 鶴司(男) 久(女)

久(男) 雪(女) 龜(男) 一二三(女) 七五三

(男) 美香(女) 敏(女) 敏(男) 功(女)

功(男) イ(女)

就學届に卅九番と記された、誘導掛の徽章掲げた二人の女先生がサー堂ぞ此方えと閑雅に懇に胡蝶の手を執て連れて行て呉れる、後に付き行く親心の嬉しさ得も云われぬ心地がする、試験所の札貼た室、堂ぞ此室へ御順にと云い置いて誘導掛わ去た此室にわ、女先生が三人して愛嬌を満面に漲らして子供の試験をして居る、其の子供の答が誠に無邪氣で罪がないのみならず、實に意表で成程子供わ斯の如きものかと、自分ながら自分の子の直打を今日初めて知た、今胡蝶の答を書き並べて見

れば實に次ぎの如くである、

教師の問

胡蝶の答

あなたの名わ お嬢さん

外にわないの 胡蝶さん

お父さんの名わ ちやーさん

お母さんの名わ かあちゃん

胡蝶さんのお宿わ何町あつちの遠くの方

お年わお幾つ 八歳

八歳とわどれたけ これだけ(指八本)

之數御覽(球十個) 一二三三七九

六つ出して御覽なさい これだけ(指四本)

これわ何ですか(口) うち

何にするものですか たべるもの

これわ(鼻) はな

何にするものか かぐもの

何にするもの(目) あくもの 見るもの

之わ何にするもの(耳) さくもの

之わ何ですか(土瓶) 鐵瓶 藥鐘

發音

ランプ

ダンブ

座敷

じゃしき だしき

火箸

しばし

さつまいも

さつまいも

色

白、黒、赤、紫、黄、青の外わ答えられなんだ、

他の子供にも往々胡蝶に似たものも見えたが、又

よいのも中々多い、中にわ一つも誤らない者もあ

る、側に見て居る親々わ氣が氣でない、氣なしの

親わ意地れて片端から教えて仕舞ので、先生の苦

心わ水泡に歸するものあり、或わ其子を叱呵るも

あり、泣き出す子もあれば、婆々の袂に縋り顔を  
出さぬもある、流石が教師だ、其れを根氣よくと  
うかこうか釣り出して饒舌らせて見る、

私の側に居る婆々さんの娘が勢わ小さいが臆面せ  
ず正確な答をする、聞いて見ると、子守と毎日子

守學校え来て居るから、よく學校馴れて見馴れ聞  
き馴れ彼迄になつた、今日日わ子守まで教えて下

さる有りがたいとだとの話であつたが、子守學校  
わ獨子守の爲めのみならず却て其の幼兒の爲めに

大に必要であると悟つた、

胡蝶の試験を終つた、計方も雜問も發音も皆丙で

あつた、堂も一人子わ兎角愛に溺れて教育を誤り

勝だ、次の室え廻わると爰わ判定所として、生徒の

組分けが爰で定まるのだそ一な、一人の男の先生

が惠比須の様な圓滿な顔して生徒の氣合を見つゝ、

種々質問される、矢張答が面白い胡蝶の答を擧ぐれば

茄子の繪を示さる

おなす

何處に出來ますか

畑(生徒中にわおすさんの籠の中にと云ふもあつた)

鯛の繪

かさかな

何處に居ますか

おさかなやに

椿の花

おはな

何處に咲いて居ますか

お堂(善光寺の庭に賣り居ればお堂は善光寺の)

胡蝶わ判定の結果、櫻の組と確定した、爰にも亦誘導掛が四五人居られ此方えと導かるゝまゝに、従ひ行くと、教室の入口に立派な櫻の繪が掲げられて、室内に種々子供(しんご)の心目(しんもく)を娯(たのし)ましむるよゝに仕組である、受持(うけもち)の女先生(おんなせんせい)が屈書(まげがき)と本人(ほんじん)とを引合せ、家庭(かてい)の有様(ありさま)、胡蝶(こてい)日常(にちじょう)の様子(やうす)等を詳しく問われた、八九人(はちゅうじん)の生徒(せいと)が溜(たま)ると、先生(せんせい)が愛(あい)の化神(けしん)

かと思わるゝ計りの面を此方に向け、皆さんわ大そーお行儀(ぎやうぎ)の美(よ)いお子(こ)で居(い)らつしやいますと、私(わたくし)わ今(いま)から皆さんのお友達(ともだち)になるので花野(はなの)かはると申(まを)します、今日(けう)わ皆さんよくいらつしやいましたと、ドレ皆さんによいものを一つ見(み)せて上げましたよー……ア猿(さる)々猿(さる)だーソー皆さんわ何處(どこ)で御覽(ごらん)でしたか、お堂(どう)ーチーお堂(どう)に居(い)たねー、皆さんわよく知(し)つて居(い)ますと、何(なに)をして居(い)ましたか、お獅子舞(しし舞)つたー芝居(しばい)踊(おど)たりする……、之(これ)わ何(なん)ですか、かにー夫(おつと)わーハケ間敷(はかまじ)ものだ、何處(どこ)に居(い)ましたか、在郷(ざいじょう)の叔母(おば)さん處(ところ)に、溝川(みぞがわ)に、と思(おも)いーだ、皆さんわよく何(なに)かも知(し)てかいでームいますと、明日(あした)亦(また)來(き)なると猿蟹合戦(さるかにがっせん)の面白(おもしろ)いお話(はなし)や美しい繪(え)なと澤山(たくさん)見(み)せて上げますよ、皆さんわ、大そーお行儀(ぎやうぎ)よくして居(い)らつしやいまし

たから御褒美を上げましょーと、饅頭一包と家庭心得一冊とを呉れましたので、子供わ踊立って喜んで居る、

嗚呼よくやつたものだ、一人の子の始末にさえ困るのに此大勢を出來ぬ業だと誰やら云ふと、其側に村會議員の方が居て、私も入學の當日を見たのわ初めてだが今日見れば教育費が實に安いものだ如何にもそーです夫れに斯く本人の力相當な所え編入して教えられるのであるから子供の爲めにわ一層の仕合せだと話して居ると、先生より、堂ぞ御隙きのふいませす時わ折り々々學校えお出で下さいまして授業を御覽下さる様に願います、又お子供衆に就いてのとわ總べて私え御面談を願いたいとかくせ兎角世の中にわ相互の意志の疏通せぬ處よりして教師のとを其の子の面前に於て是非さるゝ向きも

ふいませすそーですが、夫わ其の子供にとり害になりませすとも利益になるとわふいませねば、此の儀わ深く御承知置き下さいませ、其の他わ總べて家庭心得に詳しく記してふいませすれば篤と御覽を願ひませす、

サー皆さん明日又元氣よくお出でなさいよ、と子供の手を引いて送り出して、明日からわ爰から上り下駄わこゝ、傘わこゝに置いて、便所わこゝで斯くしてするのでと丁寧に教えて呉れた、保護者の中にわ涙を落して居るのも見えた、  
胡蝶わ、「ちやーさん、私の先生、花野先生ねーいゝなわ明日又早く來ましょーねー」  
終

婦人の本領

小島松之助



温和なるものは男女をとはず、常に人に親愛せらるゝ者なれども男女各、其形式を異にすべきなり男子は剛毅勇敢なる性能を要し、余り温和に過ぎ女々敷は其本領にわらず、斯る男子の多くは、物の役に立たぬものなり、然れども女子の最も緊要なる性質は温和である

●温和は女子權力の秘訣にして、女子は男子の如き活動的権能を有せずと雖も、其温和なる感化誘導の勢力は頗る強大なるものである、

夫は數々不品狀、欠點なしとせざるも妻は其無理不正をも、克く堪へ忍ぶの勇氣あるべし、斯る場合に婦人の憤懣し執拗なるは只、夫の悪行、逆待を増すに過ぎざる者なれば斯る場合には須らく温和勸誘によるべきである、元來女子の聲の温和なるは不平を云ふ爲にてなく、又而貌の軟弱嫵妍な

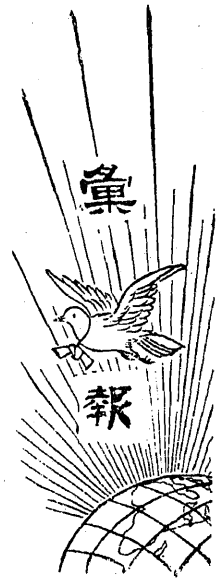
るは腹立ちて歪め易からしむる爲でもない、不如意不快の時には女子も腹立つは勿論の事なりと雖も、常に憤り、泣やくべからず、茲は一番婦人の勇氣を要する處である、男子が非道のものならざる限りは其妻が貞節にして温和なれば早晚説服、降参するものであると。

昔獨乙の オーギエストは非常に傲慢なる人であつたが、其皇后リヴィには常に説服せられた、王の死後、皇后に如何にして王の心を常に誘服し玉ひしかを問ひしに給はく。「其方法は寔に單簡なり、吾は常に謹慎にして貞操を守り、王の希望を豫察し、命令を實行せり、又、決して王が行爲を面のあたり吟味するが如きをなく、王の已になし玉ひし無理不正は恰も忘却せしが如く、決して王にも他人に語らざり」と

此方法は寔に單簡なるが如しと雖、自制力并に心情の剛毅を要し、尋常の人の行ひ能はざる所なり、

昔し世の凡ての婦人が此有徳なる皇后の心掛ありて之に倣ふを得ば、世に不品行なる夫、并に不幸なる妻は殆ど消滅すべし

●婦人が温和の徳を欠き夫婦相和せず、相反抗し或は、不平小言をならし、子供の面前にて互に愛敬することなければ此等の悪き摸範により子供の清淨、無垢なる良心を毀損するを實に寒心すべきなり、斯る家庭に育つ子供は如何にか尊敬、親愛正義の觀念を得んや、例令、財産豊かにして物質的生活は十分なるにもせよ、斯かる不徳不幸なる生活は子供の徳義の爲には貧困なるより幾十倍悲むべきなり



●女子高等師範學校

▲先月十一日本校附屬校

園とも始業、全日午前九時新入學生七十五名の爲に入學許可式舉行せり。▲同二十五日午後一時本校講堂に於て、榊醫學士の講演ありたり。演題は「兒童精神疲勞の狀態に付きて」にして同氏が附屬小學校にて實驗せんとする事項に付き詳細なる説述凡そ二時間に亘れり。其大要は先づ兒童精神の疲勞の程度如何を察知せずして教育することは頗る危険の事にして之が爲め遂に精神病に誘致するの事實なることを説き、次にエナの生理學者ウ